

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 インセイン・アンティクス	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.500	△RG 0.042	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：インセイン・アンティクス

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番

比較対照ボール：クレイジーアンティクス

フレアーの幅 インチ

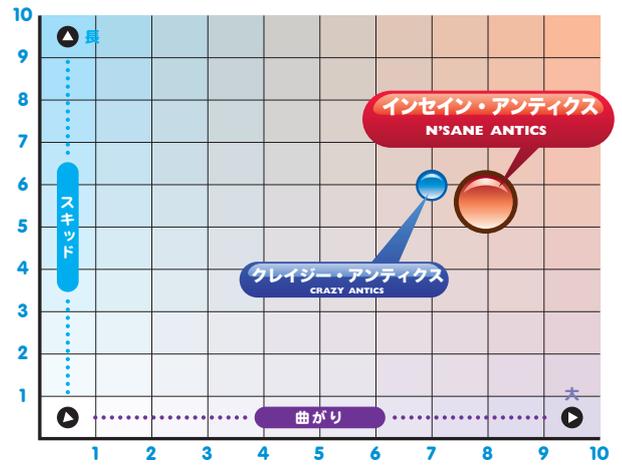
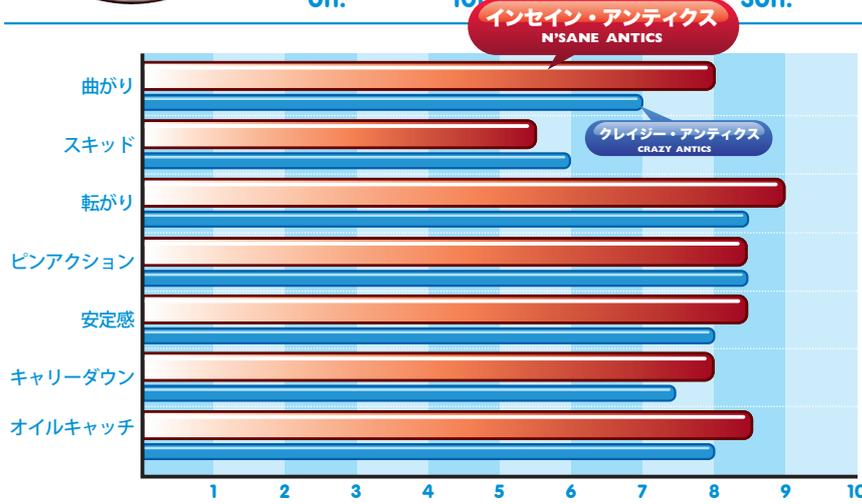
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

米国で高評価を得た前作のCrazy Antics。今回発売されるN`sane Anticsは、AR300 Solidカバーストックを特殊なポリッシュ液”Clean and Sheen”を300RPMでゆっくりと仕上げ、表面の目をしっかりと残し、POLISH加工にはない強い安定感を作り出しています。

Anticsに使われているHi-Dynamix II Coreは非常にネジレ感があり、特に前作Crazy Anticsではバックエンドでの立ち上がりの強いイメージが米国で評価され、ABS専属の川添プロも気に入って使用しています。私も初代Anticsからこのシリーズは気に入っていて、前作のCrazy Anticsは出し戻すラインも絞るラインにも用途は広く、軸移動の良さというより”起き上がりの良さ”が板目の多いラインでもジャストなストライクアングルに導いてくれるイメージがあります。今回のN`sane Anticsでも同様なことが言え、キャッチは強くなっても起き上がりの強さはしっかりと活かされていて、ピンヒットまでのイメージは強さを感じますし、コアの数値を下げコントロールさせようとする意図は窺えますが、それでもしっかりとやや角が出るような攻撃的なイメージを見ることもできます。ストライクになるかどうかの鍵は、ポケットに”適正な入射角”と”回転軸を残さない”ことが確立を高めることとなりますが、このN`sane Anticsはまさしくその答えに導いてくれる性能であり、前作Crazy Anticsと使い分けるとさらにN`sane Anticsの良さもお分かり頂けると思います。Crazy Anticsはお手ごろな価格で入手できる時期になっていると思いますので、この機会にぜひお試しください。お求めはショップにてお問い合わせください。

特記事項

コロニア社の中でもトップクラスの起き上がりの強さを持ち、軸移動もしっかりとしてピンヒットするストライクヒットに欠かせない条件をクリアできる性能です。